

教職実践演習授業概要（教科内容・指導法の確認）

国語①

第1回

言語活動についての演習：国語の授業（導入部分）や朝の会或いは帰りの会の場面における新聞を活用した指導を考える。

新聞を利用してどのような学力が身につけられるかについて意見交流をし、まとめる。その上で、新聞を活用した指導を考える。

※持ち物：新聞（一週間以内に発行されたもの）を各自持参してください。

* 次回までに指導案を提出する。

第2回

考えた指導の展開を発表し、評価、意見交換をおこなう。その後、授業を総括するレポートを提出する。

* 提出物、発表、意見交流への参加度等で評価する。

社会①

第1回

政治・経済・日本国憲法を児童に教える際に必ず把握しておかねばならぬ最低限の枢要な事柄について、講義します。講義の後で、受講生には、講義の内容を要約して貰い、その要点を児童に手際良く示す案を作成して貰います。

第2回

前回に引き続き、民主制とは何か、近代的な労働とはどういうものか、立憲主義とは何か、……などのトピックスから1つ選んで、とりわけ枢要な知識を講義します。その後で、受講生には、講義内容を児童の教育に活かす案を作成して貰い、他の受講生の前でそれを発表して貰います。

* 成績評価

提出物（授業中に指示します）の内容と授業参加度（発表、出席）とで評価します。

算数①

第1回目

小学校算数科では、算数の授業の中で、数学的活動を実現することを期待している。そこで、本時では、魔方陣を題材にした数学的活動の授業を体験し、活動の奥深さに触れることで、数学的活動の意義について知る。そして、後半は教科書分析を行い、どのように効果的に数学的活動（4つのタイプ）を授業に位置付けることができるか検討する。

第2回目

平成29年、30年告示学習指導要領では、「データの活用」領域に関する内容が大幅に拡充された。そこで、本時では、統計教育の世界的な動向と新内容である統計的問題解決のプロセス（PPDACサイクル）を取り入れた授業づくりについて紹介する。そして、後半は統計的

な問題解決を取り入れた授業づくりに取り組み、各授業案について考察する。

なお、各回とも班毎の活動を想定し、評価は、各回の取組状況及び第2回の総括レポートを中心に行う。

理科①

小学校第3学年から第6学年までの理科授業で行う観察・実験は100程度ある。春の植物の観察といった扱いやすいものから、計測器や試薬を使った実験まで幅広い。対象は物理・化学・生物・地学といった自然事象だけでなく、近年は防災教育や環境教育の視点を取り入れるなど多様化している。児童の多くは理科の観察・実験を楽しいと感じているが、反対に多くの教員が教材準備や安全管理などで負担感や苦手意識をもっている。

本演習では、さまざまな素材や教材、ICTにふれるとともに、子どもたちがどのように学ぶのかを参加者が意見交換することなどを通して、理科授業に対する理解を深め、実践力の向上を図る。

音楽①

音楽学習2領域（A表現、B鑑賞）の中の鑑賞を視点として実践的に研究を行う。鑑賞指導においては、教材研究を通して、取りあげようとする音楽作品の教育的価値を見出し、それを学習活動としていかに提示し展開していくかが授業の成否に関する大きな課題といえる。本授業では、実際に様々な音源資料の視聴を通して教材研究に取り組み、教材を吟味する力を高めていく。例えば、一つの作品についても、時代、演奏家、あるいは指揮者による違い等、様々な角度から捉える。そこから、目の前にいる生徒に対して、どのような目的で何を、どのように提示していくか、学習者の学齢や経験、あるいは興味に相応しい学習の組み立てにつながる手立てを得ることを目的とする。同時に、音楽を指導する教師に求められる資質の充実も図る。

体育①

保健授業においても、子どもが主体的な活動を通して学ぶスタイルが検討されるようになってきている。そこで、本時では、子どもが主体的な活動を通して学ぶ「ワークショップ型授業」を実際に体験する。そして、それら体験を通して、グループワークを介して学ぶ方法及び新たな授業方法の利点を発見することを目的とする。

評価は、レポート課題とする。

英語①

この授業は小学校外国活動に関して、授業計画の立案を含めて、どのように行ったらよいかを検討することを目的とする。理論については実践を検討・討議する中で適宜取り扱う。授業の評価は、グループ討議や模擬授業の様子、および各自が提出した指導案と授業レポートを総合的に評価する。

第一回では、外国語活動の授業の例としてビデオや指導案、具体的な活動例などを提示し、その理論と意義を検討する。また、英語の歌や絵本の読み聞かせの指導法なども学ぶ。

第二回では各自が作成した指導案をもとに、グループごとに模擬授業を行うことによつ

て円滑に外国語活動の授業を行えるようになることをねらいとする。

なお、授業レポートは各回、マナログにて学修事項に関する課題に答える形で Web 上に提出をする。

図画工作①

教室掲示物についての演習

新学期を迎えた小学校の教室環境をどのように整備するのか、掲示物の内容、色、形、大きさについて全体で意見交換し、具体的に手作り掲示物の制作をおこなう。

〈第1回〉

新学期初めの教室掲示物をつくるにあたり考慮すべき点について確認し、各自で掲示物の制作をおこなう。計画にあわせた必要な材料等の準備についても自身でおこなう。

〈第2回〉

制作した掲示物を実際に掲示して、制作意図の発表や学生同士の意見交換をおこなう。その後、授業を総括するレポートを提出する。

* 制作に必要と思われる材料、用具を持参すること。（鉛筆、のり、絵の具など）

* 提出物（制作した掲示物、レポート）と意見交流への参加度等で評価する。

国語②

辞書を活用したグループ活動の演習

第1回

授業開きの際や、新しい単元に進むのに時間が中途半端になる時に、辞書を活用した「たほいや」という言語活動は大変有効である。「たほいや」のやり方を理解し、実際に行った上で、その活動を振り返り、全体で意見を交換する。

第2回

「たほいや」は初めての者にはそのやり方がやや複雑で、それなりの言語知識を必要とする。グループによってはうまく進行できない、言語知識が少なく楽しく参加できないなどの不都合が生じる。授業で「たほいや」をするにはどのようなことに留意したらよいか、やり方を工夫できないかなどの点を交流しながら検討する。そして、検討結果を反映させた「たほいや」を行ってみる。

社会②

第1回

地域観察（調査）における学習指導の実際について、大学周辺の身近な地域を対象に自然基盤と歴史基盤の観点から実施する。地域観察の学習について、実地において指導できる力を身につけることがねらいである。雨天の場合は、室内において地域観察の対象地域に即した地形図や景観写真などの読図や読解を行う。

第2回

地域観察（調査）の実際を踏まえて、実地で得られた気づきや観察内容など意見交換を行う。意見交換をもとに、自然基盤と歴史基盤の観点から観察した地域に関わる指導内容をまと

めた地域観察指導マップを作成する。実地における参加度や意見交換、作成された地域観察指導マップなどで評価する。

算数②

- 1回目：小学校の算数から学び始める数学の基礎の一つである整数の基本性質を復習・確認する。
- 2回目：小学校から中学校へと発展的に学習する教材の例について、数学的基礎を確認し、小学校または中学校での教材としての活用法を検討する。

評価は1、2回とも取り上げたテーマについて、小中学校での活用法をレポートして提出しもらうことで行なう。

理科②

中高理科免許を保有していない小学校教員では、理科の指導に対する苦手意識を持つ教員が半数程度はおり、また理科の学習内容の知識・理解、観察・実験や指導法の知識・技能などが低いと自認している教員が教職経験年数が短いほど多いといわれている。児童生徒の理科への関心は教師によって大きく左右されることから、教員側の苦手意識を払拭することが必要である。

そのために本演習では、理科の授業を行うために必要な教材研究、模擬授業、グループ討論などの演習を通じて、各自にとっての課題を自覚し、必要に応じて不足している知識・技能や指導力を補い、定着を図ることで、理科を指導する教員としての実践的指導力の向上を目的とする。

音楽②

音楽学習2領域（A表現、B鑑賞）の中の鑑賞を視点として実践的に研究を行う。鑑賞指導においては、教材研究を通して、取りあげようとする音楽作品の教育的価値を見出し、それを学習活動としていかに提示し展開していくかが授業の成否に関する大きな課題といえる。本授業では、実際に様々な音源資料の視聴を通して教材研究に取り組み、教材を吟味する力を高めていく。例えば、一つの作品についても、時代、演奏家、あるいは指揮者による違い等、様々な角度から捉える。そこから、目の前にいる生徒に対して、どのような目的で何を、どのように提示していくか、学習者の学齢や経験、あるいは興味に相応しい学習の組み立てにつながる手立てを得ることを目的とする。同時に、音楽を指導する教師に求められる資質の充実も図る。

体育②

保健授業においても、子どもが主体的な活動を通して学ぶスタイルが検討されるようになってきている。そこで、本時では、子どもが主体的な活動を通して学ぶ「ワークショップ型授業」を実際に体験する。そして、それら体験を通して、グループワークを介して学ぶ方法、新たな授業方法の利点、及びアクティヴィティを用いた保健授業の企画・立案を目的とする。

評価は、レポート課題とする。

英語②

* 「小学校の外国語活動と小学校や中学校の教科英語の基本的な考え方」

教育課程上の位置づけは、小学校と中学校では大きく異なる。小学校では、領域としての外国語活動と教科としての英語の 2 種類の学びがある。中学校では教科指導として位置づく。小学校については、義務教育の基礎段階に新たに設けられた意義と意味を理解する。中学校では、英語のコミュニケーション能力の基礎の養成についてその意義と意味を理解する。次に、教育実習での教授経験を踏まえ、学習指導要領の理念に合致した授業が行われたかどうかについての各自の経験を考察する。授業の評価については、観点①授業への参加度として「持論発表の積極性」、観点②意見などの内容に関して「内容上の優秀性」について「観察手法」等を用いる。なお、必要に応じて課題等の資料を観点②に加味することもある。

幼稚園

第 1 回

「保育室のあり方について考える」

保育における環境づくりは、子どもの発達を大きく左右するといえる。第 1 回は、保育室の保育環境に注目し、子どもの実態に応じた物の配置について考えていく。①保育室には何が必要か、②どのように配置するか、③生活がしやすい、遊びやすい環境にするためにどのような配慮をするかを考え、④保育室の環境構成図を作成する。⑤配慮した点とそこで予想される子どもの姿を発表し合い、子どもが安心して生活しやすい保育環境のあり方についての考えを深める。

第 2 回

「園庭のあり方について考える」

第 2 回は、園庭の保育環境に注目する。子どもの遊びが広がり、自主的に遊びを育むことができる園庭とはどのようなものがあるかを考えていく。①園庭ではどのような体験ができるのか、②園庭には何が必要で、③どのように配置するかを考え、④グループで園庭の環境構成図を作成する。⑤配慮した点とそこで予想される子どもの姿を交流し、子どもが主体的に活動する環境づくりについての考えをまとめていく。

《評価》 グループワークや意見の発表など授業への積極的参加度によって評価を行う。